

プレゼンテーションソフト（キューブキッズ）を使って自分の考えを伝える

6年

活動名 国語 自分の考えを発信しよう



実践者 岡上小学校 片岡義順

1. 平成18年12月13日～12月22日

2. ねらい

- ・ 限られた時間の中で最大限に考えたことや自分の意図が伝えられるような話の組み立てを工夫し、適切な言葉遣いで話すことができる。

3. 活動の流れ

活動及び取り組みの流れ	支 援
<p>筆者の伝えたいことをもとに戦争や平和について考え話し合う。発信する相手と課題を決める。</p> <p>現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめ、それに説得力を持たせる材料を集める。</p> <p>集めた資料をもとに「仮の要旨」を「確定した要旨」にまとめ直す。</p> <p>自分の考えをノートに書きまとめる。</p> <p>書きまとめたノートをもとにプレゼンテーションを作成する（この授業時間は総合的な学習の時間扱い）。</p> <p>全員がプレゼンテーションを用いて発表会を開く。</p>  <p>左の写真は発表会当日の写真。教室に液晶プロジェクターとマグネットスクリーンを設置してそれぞれの考えや思いを出し合った。それぞれのプレゼンでキャッチコピーの工夫や効果音の挿入などが見られ子どもたちは友達の発表に飽きることなく最後までスクリーンに注目しながら耳を傾けることができていた。</p>	<p>・ 「平和のとりでを築く」の学習や教科書の資料をきっかけに社会科の学習や平和に関する学習とつなぐなどから問題意識を高めていった。</p> <p>・ 事前に活用できそうな図書資料やインターネットのホームページを準備しておき児童に紹介していた。http://www.pcf.city.hiroshima.jp/virtual/ http://www.nvccom.co.jp/abomb/</p> <p>・ まとまりごとに見出しをつけ、効果的な組み立てを考えていくようにしプレゼンテーション作りに役立てていった。</p>  <p>右の写真は実際に子どもが作成したプレゼンテーション。慣れてくると1時間程度で仕上げられる子どもも出てきた。プレゼンソフトの操作方法は総合の時間3時間かけて行い習熟をはかった。</p> 

4. この取り組みの成果

子どもたちは今回初めてプレゼンテーション作りに挑戦した。プレゼンテーションを作成するにあたっては、あらかじめ一人5ページ以内でまとめるというルールをつくった。その中でいかに自分の主張が相手に伝わりやすいかを考えながらスライドの構成、提示順序、キャッチコピーなどを工夫していくことができた。プレゼンテーションを活用できるようになったことでいろいろな教科や場面での子どもたちの表現の幅が広がると同時に、相手に自分の考えを伝えるときに構成や話し方を工夫しようという姿が見受けられる子どもも出てきている。